

製品名: KLF8 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13064**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	KLF8
別名	KLF8; BKLF3; ZNF741; Krueppel-like factor 8; Basic krueppel-like factor 3; Zinc finger protein 741
遺伝子 ID	11279.0
SwissProt ID	O95600
免疫原	抗血清はヒト KLF8 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 191-240

背景

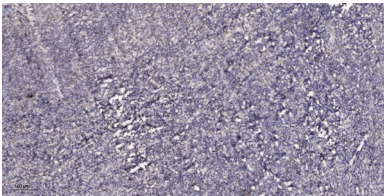
この遺伝子は、転写因子の Sp/KLF ファミリーのメンバーであるタンパク質をコードしています。このファミリーのメンバーは、3つ

の Kruppel 様ジンクフィンガーを持つ C 末端 DNA 結合ドメインを含んでいます。コードされているタンパク質は、発生中に正常に起こるだけでなく転移時にも起こる上皮間葉転換の調節に重要な役割を果たすと考えられています。偽遺伝子が 16 番染色体上に同定されています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2009 年 4 月],機能:転写抑制因子および転写活性化因子。CACCC ボックス プロモーター エレメントに結合します。また、サイクリン D1 プロモーターの GT ボックスにも結合し、接着斑キナーゼ (FAK) の下流標的として G(1) 期での細胞周期進行を媒介します。、PTM:Lys-67 の SUMO 化は転写活性を抑制し、G(1) 期への細胞周期進行を低下させます。細胞内局在には影響を与えない。、類似性: Sp1 C2H2 型ジンクフィンガータンパク質ファミリーに属する。、類似性: 3つの C2H2 型ジンクフィンガーを含む。、サブユニット: コリプレッサー CtBP2 と相互作用する。PIAS1、PIAS2、および PIAS4 と相互作用する。各リガーゼとの相互作用は KLF8 を SUMO 化する。、組織特異性: 普遍的。、

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°Cで一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45 分)。